熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2023

無加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」では２本主枝にして植栽密度を高めることで収量が増加し、労働生産性も向上する

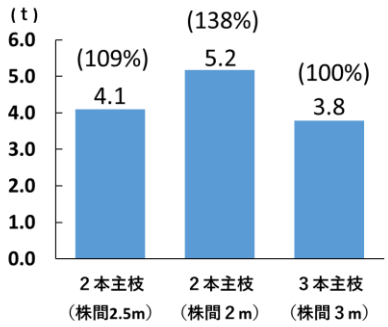

図１　10a当たり収量の比較

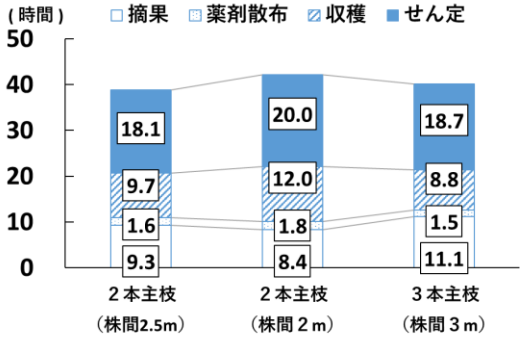

図２　10a当たり作業時間の比較

写真１　ヒリュウ台「肥の豊」
２本主枝仕立ての着果状況

※3本主枝（株間3m）95樹/10a、2本主枝（株間2.5m）114樹/10a、2本主枝（株間2m）142樹/10a

問　研究のねらいは？

答　無加温栽培の「不知火」「肥の豊」では、秋季に雨が多い年は果実糖度が上がりにくく、問題となっています。また、近年、生産農家の減少や高齢化などにより、生産量も減少傾向にあることから生産性の向上が求められています。

そこで、高糖度果実が生産できるヒリュウ台※「肥の豊」の導入を進めるにあたり、省力樹形である2本主枝の作業時間や収量等を、一般的な仕立て方である3本主枝と比較することで、省力効果や収量性を明らかにしました。

※一般的な台木（カラタチ台）よりも根からの養水分が地上部へ移動しにくく、土中の浅い位置までしか根が入らないことから、樹体に水ストレスがかかりやすく、高品質果実が生産されやすくなります。

問　調査の結果は？

答　２本主枝にして植栽密度を高めることで、10a当たりの収量は増加します。また、10a当たりの作業時間はあまり変わらず、収量が増加することで労働生産性が向上します。

1. 1樹当たりの収量は、3本主枝に比べて2本主枝が少なくなりますが、10a当たりの収量は植栽本数が多い2本主枝が多くなります（図1）。
2. 10a当たりの作業時間は、3本主枝に比べて、2本主枝（株間2.5m）区は同程度、2本主枝（株間2m）区でやや長くなりました（図2）。
3. 2本主枝、3本主枝ともに高糖度で、果実品質に大きな差はありません。

問　栽培または普及するうえで注意する点は？

答

1. 2本主枝は3本主枝に比べて樹勢がやや強く、樹高が高くなる特性が見られます。
2. 2本主枝の植栽距離は、2mでは密植になりやすく、汚れ果症が多発する恐れがあります。そのため、肥沃なほ場に植栽する場合は2.5mとします。

果樹研究所　常緑研究室